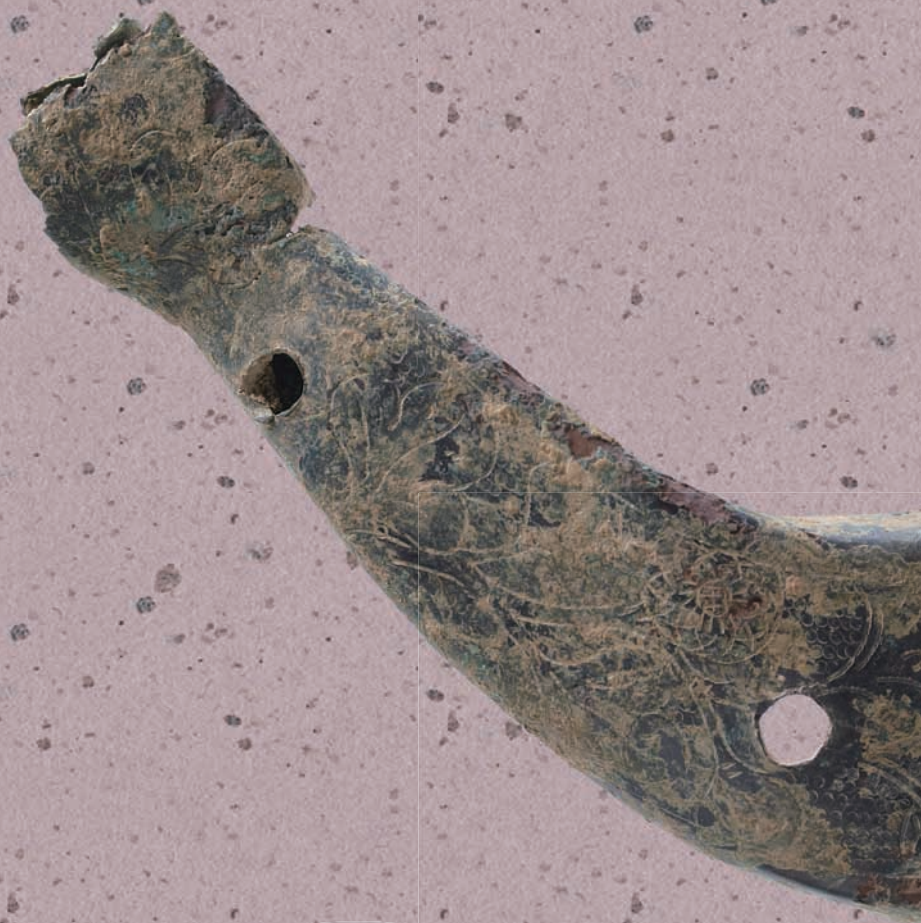


第二十七回

平成二十三年度京都府内遺跡発掘調査成果速報

小さな展覧会

小企画 貴族から武士へくものふ参上く





展覧会開催にあたって



当調査研究センターでは、平成 23 年度に 21 件の発掘調査を受託しました。今回は、その中でも特に注目される 10 遺跡を取り上げ、京都府内各関係機関の発掘調査成果 20 件と合わせて、速報展示します。さらに、小企画コーナーでは、平成 22 年度以前の調査成果 4 件を合わせて紹介します。

この展覧会の目的は、昨年度に京都府内で行われた発掘調査の成果を出土遺物や写真などによって紹介し、多くの方々に埋蔵文化財への理解を深めていただくことにあります。そのため、よりわかりやすく、親しみやすい展示を心がけました。

小企画コーナーでは、「貴族から武士へ～もののふ参上～」と題して、平氏をはじめ武士が活躍した時代に関連する遺跡を取り上げ、その移り変わりを紹介します。

この展覧会にご後援をいただいた京都府教育委員会をはじめ、協賛をいただいた向日市文化資料館、様々なご協力を賜った各関係機関に対し、深く感謝します。

平成 24 年 8 月

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

理事長 上 田 正 昭

凡 例

1. 本書は、「第 27 回小さな展覧会～平成 23 年度京都府内遺跡発掘調査成果速報～」(平成 24 年 8 月 18 日～9 月 2 日に開催)の展示図録です。
2. 展示資料は、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターおよび各機関が主として平成 23 年度に発掘調査および整理作業を行った遺跡・遺物を対象としました。なお、展示資料は、都合により員数等が異なる場合があります。また、本図録に掲載している写真は展示資料のすべてではありません。
3. 展覧会期間中の 8 月 25 日(土)に第 122 回埋蔵文化財セミナーを開催します。
4. 資料調査・図録作成・展示・資料借用にあたっては次の機関および個人からご協力をいただきました。
(順不同・敬称略) 京都府教育委員会・宮津市教育委員会・与謝野町教育委員会・福知山市教育委員会・亀岡市教育委員会・財団法人京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館・向日市教育委員会・公益財団法人向日市埋蔵文化財センター・長岡京市教育委員会・公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター・大山崎町教育委員会・八幡市教育委員会・宇治市教育委員会・井手町教育委員会・木津川市教育委員会・同志社大学歴史資料館・枚方市教育委員会・早川和子
5. 本図録は、京都府立山城郷土資料館のご協力を得て作成しました。

(表紙写真:三ノ宮東城出土^{くわがた}鉄形台、美濃山廃寺出土埴^だ仏・ひさご形土製品・不明土製品:6頁参照)

じょうもん

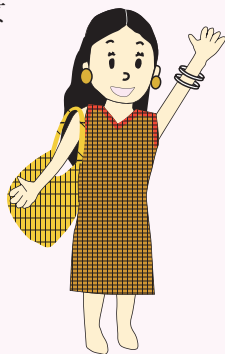
縄文時代（紀元前 11,000 年～紀元前 400 年ごろ）の遺跡

てんがわ 亀岡市天川遺跡

亀岡市教育委員会調査

天川遺跡は^{おおい}大堰川右岸の扇状地に広がる縄文時代から中世の集落遺跡です。

今回の調査では、集落の縁辺を流れる川跡が見つかり、そこから縄文時代中期末（約 4,000 年前）の土器の破片が多量に出土しました。土器の表面には、縄目の文様や棒を刺したり、貝殻の縁で擦ったりして付けた文様が見られます。この時期の集落の内容を示す貴重な資料といえます。



縄文時代中期末（約 4,000 年前）の土器の破片

やよい

弥生時代（紀元前 4 世紀～紀元 3 世紀ごろ）の遺跡

まつだ 大山崎町松田遺跡

当調査研究センター調査



めずらしい八角形の竪穴建物（弥生時代後期）が見つかりました。住居の北側には入り口と考えられる張り出し部があります。この住居は炭化した木材や焼土が検出されたことから火災にあったと考えられます。

松田遺跡は、小泉川下流域に広がる弥生時代後期（1～2 世紀ごろ）から中世にわたる集落遺跡です。

今回の調査では、弥生時代後期の集落域で、平面が八角形で大型の^{たてあな}竪穴建物が見つかりました。この建物は、広さ 53.9㎡で、中央には

炉跡があり、壁際には

ベッド状遺構（床面より一段高くなった場所）



出土した弥生土器の甕

こふん あすか 古墳・飛鳥時代（3世紀～7世紀）の遺跡

ことろげ 与謝野町小峠古墳群

与謝野町教育委員会調査

小峠古墳群は、加悦谷平野を西に見下ろす丘陵端部に立地する6基の円墳からなります。

2基の古墳を調査した結果、墳丘は現在の道路により半分削られていましたが、6世紀前半に造られた直径10～15mの円墳であることがわかりました。

いずれの埋葬施設においても遺体を埋葬するのに舟形ふながたの木棺を使用していたと考えられています。出土遺物には、副葬された鉄鍬てつぞくや枕として使用された須恵器すえきがあります。



小峠5号墳の全景



小峠5号墳から出土した須恵器すえきの高杯たかつき

古墳は3世紀中頃から7世紀を通じて造られた、その地域を代表する人の墓といわれているのじゃ。



福知山市ゲシ山古墳群

福知山市教育委員会調査



ゲシ山3号墳の埋葬施設全景

ゲシ山古墳群は、由良川と土師川の合流点の南東に広がる丘陵尾根上に立地する21基の小規模な古墳からなります。古墳からは、福知山盆地を一望できます。

2基の古墳（3・4号墳）を調査した結果、古墳は4世紀中頃から5世紀にかけて築造されたことがわかりました。3号墳では墓穴の底全体に礫を敷き詰め、その上に箱形はこがたの木棺を置いていたと考えられます。小規模な古墳では類例が少なく貴重な例といえます。

向日市^{もといなり}元稲荷古墳



調査地全景

公益財団法人向日市埋蔵文化財センター調査

元稲荷古墳は、古墳時代前期（3～4世紀）に向日丘陵上に造られた乙訓地域の大規模な古墳の1つです。全長92mの^{ぜんぼうこうほうふん}前方後方墳で、府内でもっとも古い古墳の1つです。今回、古墳の前方部で墳丘の形状を確認したところ、前方部が直線的に延びることがわかりました。このことから、この古墳は奈良県天理市西^{にしとのづか}殿塚古墳の2/5の規格で造られたことがわかりました。

京田辺市^{こうと}興戸遺跡

興戸遺跡は、木津川左岸の平地から台地上に広がる弥生時代中期（紀元前2世紀ごろ）から中世の集落遺跡です。

調査の結果、古墳時代前期の旧河道から多量の土器が出土しました。土器群はほぼ完形に近く、小型の壺が多く見られました。これまでの研究では、水辺で行われたお^{まつ}祀りの一例ととらえられています。

当調査研究センター調査



小型の壺の出土状況

宇治市^{あさくら}巨椋遺跡



古墳を削って建てられた竪穴建物

宇治市教育委員会調査

巨椋遺跡は、木津川右岸の低地に広がる古墳時代から中世の集落遺跡です。古墳時代には旧巨^{おぐらいけ}椋池周辺に分布する拠点的な集落の一つであったと考えられています。

調査の結果、一辺20mを超える円墳とその古墳の墳丘を削って造られた6基の方形の竪穴建物群が見つかりました。



八幡市美濃山廃寺第6～9次

八幡市教育委員会・当調査研究センター調査

美濃山廃寺は、木津川左岸の丘陵上に広がる古代寺院であり、平城京と山陰地方や山陽地方を結ぶ重要な道路が、すぐ近くを通っていたと考えられています。

今回は、新名神高速道路等の開発事業に伴い発掘調査を行いました。調査では7世紀後半から9世紀前半にかけての多数の掘立柱建物、区画溝、柵、土坑に加え、鉄器や青銅器を生産した炉、瓦を焼いた瓦窯などが見つかりました。中でも中央部にある大型の建物は、掘立柱と礎石を併用した特殊な構造の建物と考えられ、この寺院の中心的な建物と考えられます。

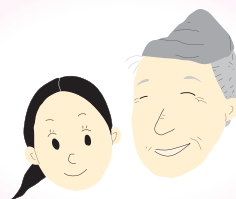
出土遺物には、瓦や塼^{せんぶつ}、仏教行事に使用されたと思われる土製品、三彩陶器など貴重なものがあります。

検出した遺構からは金堂や塔など寺院の主要建物を特定することはできませんでしたが、倉庫群など寺域の一部を明らかにすることができました。これらの調査成果から、美濃山廃寺は掘立柱建物を主要施設に持つ在地の有力者が建立した寺院であったと考えられます。



中央の竹林の上方に倉庫群が広がり、手前に中心建物があります。

八幡市を含む南山城地域には20か所以上の古代寺院があったことが知られているのじゃ。



中心となる掘立柱と礎石を併用した建物です。方形の穴は柱を支えるためのもので、柱穴と柱穴の間に礎石があったと推定されます。





不明土製品

鳥のくちばしを模したような土製品です。



二尊連坐塼仏

^{せんぶつ}塼仏は、粘土に型押しで仏像を表したタイル状のもので、仏堂などの壁面を飾るのに使われます。美濃山廃寺では合計4点出土しました。左側の写真の如来坐像の太ももあたりには^{きんぱく}金箔がわずかに残っています。



三尊連坐塼仏



覆鉢形土製品

仏具と思われる土製品には、半球形の^{ふくぱちがた}覆鉢形土製品やひょうたんのような形をしたひさご形土製品などがあります。覆鉢形土製品は土製の小塔で、約35点出土しました。ひさご形土製品は約13点出土しました。全国的にも例がないものですが、塔の宝輪に似ていることから土製小塔の一種と考えられます。



ひょうたん（ひさご）の形に似ているのでこのように呼ばれているんだよ。



ひさご形土製品



九頭神廃寺とよく似た文様の軒丸瓦

瓦には鬼瓦や^{しび}鴟尾、軒丸瓦、軒平瓦などがあります。8世紀前半には瓦葺きの建物があつたようです。軒瓦の文様を見ると大阪府枚方市^{くずがみはいじ}九頭神廃寺や^{くだらじ}百済寺、平城京で使われた軒丸瓦とよく似たものがあります。また、木津川市山城国分寺を補修した時に使われた軒丸瓦などもあり、^{やまし}山背国や^{かわち}河内国の一部の寺院と密接な関係があつたようです。

井手町井手寺跡

井手町教育委員会調査

井手寺は木津川右岸の台地上に立地する古代寺院です。奈良時代の前半、聖武天皇の時代に左大臣であった橋諸兄たちばなのもろえが建立したと考えられています。

調査の結果、寺の東側を区画する築地つじの基礎と盛り土、その外側の雨落ち溝が見つかりました。出土した瓦の中には新しい種類の文字瓦（瓦を生産した工人の名前を型押ししたもの）がありました。寺院の造営組織を考える上で重要な資料といえます。



中央が雨落ち溝、右手の高まりが築地

長岡京市長岡京跡右京第1019次

公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター調査

調査地は、長岡京の南半部の右京八条二坊六・七町にあたります。

調査の結果、長岡京の時代の甕を据え付けた穴が規則正しく並ぶ掘立柱建物や井戸が見つかりました。また、建物の西側の溝からは大きな須恵器の甕が出土しました。これまでの研究成果から、酒造りに関わるものと考えられます。



須恵器の大甕出土状況



甕を据え付けた建物

かまくら あづち ももやま 鎌倉～安土・桃山時代（13世紀～16世紀）の遺跡

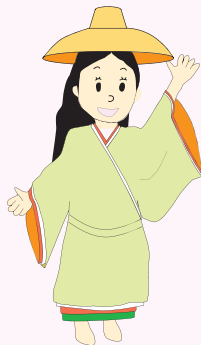
京田辺市^{かどた}門田遺跡

当調査研究センター調査

門田遺跡は、京田辺市と八幡市との境界付近の木津川左岸の低地に広がる集落遺跡です。

調査の結果、鎌倉時代の掘立柱建物や井戸、流路跡が見つかりました。流路跡からは土器がま
とまって出土しました。これらの土器には煮炊きで使った^{はがま}羽釜や鍋、食膳に使った^{がきわん}瓦器碗や土師
器の皿があり、中世の人々の食事の様子をしのばせてくれます。

羽釜には^{すす}煤がたくさん
付いていることからよく
使い込んでいることがわか
ります。



鎌倉時代の碗・皿や羽釜

精華町^{むくのき}棕ノ木遺跡

当調査研究センター調査



条里地割に沿って東西に走る小溝群

棕ノ木遺跡は、木津川左岸の自然堤防お
よび後背湿地に広がる古墳時代から中世の
遺跡です。また、遺跡の周辺は^{じょうりちわり}条里地割が
よく残っている地域です。

調査の結果、条里地割に沿った^{つぼざかいみぞ}坪境溝（水
田の大区画の境界となる溝）や小溝群、井戸、
^{どこう}土坑などが見つかりました。坪境溝は幅 3.5
mの浅い東西方向の溝で、その存在は13世
紀初頭までさかのぼります。この地域の条
里地割の施工時期を示す貴重な事例になり
ます。

江戸時代（17 世紀～ 18 世紀）の遺跡

八幡市^{きづがわかしょう}木津川河床遺跡

当調査研究センター調査



近世の貼り石

木津川河床遺跡は、八幡市と京都市にまたがる弥生時代から近世にいたる集落遺跡です。

桂川左岸の河川敷内を調査したところ、護岸の一部と考えられる近世の石敷きと貼り石が見つかりました。この施設の性格についてはまだよくわかりません。

木津川市^{じょうるりじ}浄瑠璃寺庭園

木津川市教育委員会調査

浄瑠璃寺庭園は、宇治市平等院と同じく平安時代末期に造られた浄土庭園で、国の特別名勝・史跡に指定されています。

現在の園池の^{みぎわ}汀の下層に、江戸時代の盛土層や石垣、鎌倉時代から室町時代の州浜を確認しました。このことから庭園の園池は、江戸時代に大規模に整備されていることが明らかになりました。



江戸時代の石垣

京都市^{きょうおうごくじ}教王護国寺（東寺）境内

財団法人京都市埋蔵文化財研究所調査



東築地の断面

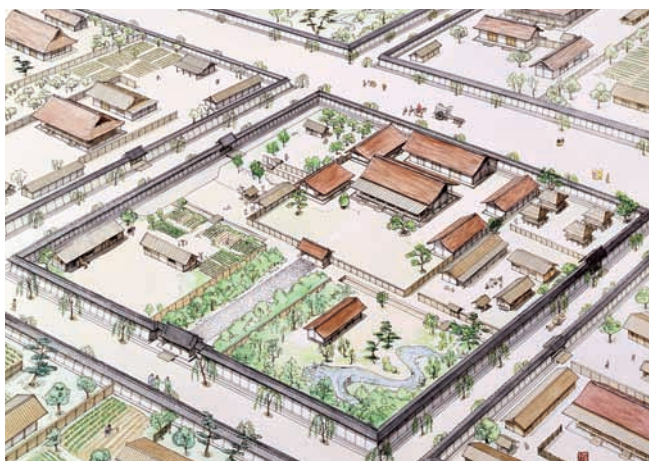
東寺は、西寺と並び 794 年の平安遷都の直後に平安京内に造られた寺院です。国の史跡に指定され、世界遺産にも登録されています。

東側の^{ついでい}築地塀を調査したところ、平安時代から江戸時代の土層が層状に積み重なった築地の盛土が確認されました。このことから築地本体は、創建当初の築地を補修しながら使用され、現在にいたることがわかりました。



1. 貴族のくらし

平安時代になると^{しょうえん}莊園が発達し、^{ずりょう}受領（国司のこと）や地方の^{こうぞく}豪族による有力貴族への莊園寄進がさかんになりました。それにより貴族は莊園から多くの利益を受け豊かな生活を送っていました。貴族の世は豊富な財力を活かし、仏教の興隆や国風文化の隆盛を起こしましたが、次第に世の中はみだれます。貴族の勢力をおさえるため天皇を退位した^{じょうこう}上皇による^{いんせい}院政が始まり、天皇や貴族が権力を争う中、源氏や平氏などの武士が力をつけていくのです。ここでは、このような時代の移り変わりをみていくことにしましょう。



平安京右京一条三坊九町の邸宅復原図（早川和子 作画）
※発掘調査の成果をもとに描かれています

現京都府立山城高等学校（京都市北区）の敷地の地下には、平安時代初めの貴族の邸宅が眠っていました。大型掘立柱建物を中心に「コ」の字に建物が配置され、前面には広場がありました。中心建物は棟^{むね}だけに瓦が使われていたようです。敷地の南端には^{ひわだぶ}檜皮葺きの門がありました。貴族の邸宅は平安時代中期になると大きな池を配置した^{しんでんづくり}寝殿造になります。ですが、その原型と評価されています。

貴族の邸宅－平安京左京四条一坊六・十一町－

平成 21 年度 当調査研究センター調査

現在の中京警察署の敷地の下には、平安時代後期の白河上皇の近臣であった^{ふじわらのくににあき}藤原国明の邸宅がありました。その東端から壬生大路の範囲を調査したところ、平安時代末期の井戸から中国製青磁壺や^{おうゆうばん}黄釉盤、^{とこなめ}白磁壺、常滑焼甕などが多数出土しました。当時の貴族の暮らしぶりがうかがえます。



常滑焼の甕

コラム：石のおもり



石製の錘（重さ 89 g：野条遺跡出土）

石製の^{おもり}錘は、^{さおばかり}竿秤に使用されました。この錘が出土した南丹市の^{のじょう}野条遺跡一帯は、平安時代前期は丹波国の領地でしたが、その後、^{ごしらかわいん}後白河院の近臣^{ふじわらなりちか}藤原成親（^{たいらのしげもり}平重盛の義兄）や平家の所領となり最終的に^{じんごじ}神護寺領となります。このおもりで莊園から納められた税物の重さを量っていたのかもしれません。

2. 平氏の活躍とその足跡

源氏と平氏などの武士が力をつけていく中で、平安時代末期には天皇家と摂関家の権力争いである保元の乱（1156年）や平治の乱（1159年）を経て平氏が政権を握ります。平氏は六波羅を拠点に活躍し、最盛期には全国の約半分の国が平氏の勢力下に入りました。

『平家物語』には「平氏にあらねば人にあらず」とおごれる平氏が表現されています。

平清盛^{たいらのきよもり}は保元3（1158）年に大宰太式^{だざいのだいに}となり博多や大輪田泊^{おおわだのとまり}（神戸市）などの港を整備し、宋との貿易に乗り出します。日宋貿易により日本では流通革命が起こり、その後の日本の経済に大きな影響を与えました。

丹波でみつかった平氏の館—福知山市大内城跡—^{おおうちじょう}

昭和56年度 当調査研究センター調査



大内城での生活の様子（早川和子 作画）
※発掘調査の成果をもとに描かれています

福知山市南西部の六人部^{むとべ}には平安時代末期に六人部荘という荘園がありました。荘園の領主は平清盛^{よりもり}の弟頼盛^{よりもり}でした。

大内城跡は竹田川と土師川との合流点を望む台地上にあり、土塁^{どるい}や空堀^{からぼり}に囲まれた一町規模の屋敷が築かれていました。中世の城の先駆的な館城といえます。中国製陶磁器が1,300点余り出土したことから、この屋敷地は京都と結びつきの強い^{しょうかんやしき}荘官屋敷であったと推定されました。中国製陶磁器が他の遺跡に比べて格段に多く、いかにも、日宋貿易を押し進めた平氏の^{やかた}館にふさわしいものです。

平氏の拠点六波羅—京都市六波羅蜜寺旧境内—^{ろくはらみつと}

財団法人京都市埋蔵文化財研究所調査

六波羅蜜寺^{くわしやうにん}は、空也上人が応和3（963）年に鴨川の東に御堂を建てて西光寺と呼んだことが始まりで、没後、六波羅蜜寺と呼ばれることとなりました。六波羅は平氏の六波羅邸があったところで、六波羅と平氏とのつながりは、清盛の祖父正盛^{まさもり}がこの地に仏堂を建てたことに始まります。文治元（1185）年壇ノ浦^{だんのうら}の合戦後、源頼朝^{みなものよりとも}が接收し、北条氏が鎌倉幕府の政庁（六波羅探題^{ろくはらたんたい}）を設けました。

調査で見つかったのは、六波羅蜜寺の北西隅の堀と門です。



見つかった門と堀



3. 日宋貿易－陶磁の道－

宋で生産された多量の貨幣や陶磁器は、日本を始め東アジアに広く流通し、東アジア全域が中国の通貨による貿易圏となりました。陶磁器は遠くエジプトなどにも運ばれていました。日宋貿易で輸入された多量の宋銭や中国の白磁や青磁などの陶磁器は、瀬戸内海から淀川を遡り、山崎や八幡、淀などで陸揚げされ、都へ入ってきました。そして、全国各地から都へ送られた米や特産品の帰り船や陸路で地方にもたらされました。

このルートのほかに日本海ルートもあったようで、丹後宮津は港湾都市として栄えていたようです。

川の津－大山崎町^{やまざきつ}山崎津跡－

当調査研究センター調査

山崎の地は淀川を遡り京都盆地に入っすぐのところにあり、長岡京の頃に津として都の玄関口となりました。平安京に都が移った後も水運および陸運で運ばれた物資の中継地として栄えていたようです。

調査地は西国街道沿いにひろがる町屋付近にあたり、平安時代後期から鎌倉時代初期の中国製白磁が多数見つかりました。色合いも鮮やかな白で、製品としては上質なものが含まれます。



出土した輸入陶磁器

日本海の港－宮津市^{なんばの}難波野遺跡－

宮津市教育委員会調査

難波野遺跡は、天橋立の北側の低地に広がる遺跡です。天然の良港である宮津は丹後国府や国分寺、守護所、^{この}籠神社があり、古代から政治・経済・信仰の中心地でした。

昨年度の調査では、平安時代末頃の建物の礎石や土坑がみつかり、そのころは調査地付近が遺跡の中心であったことが明らかになりました。また、新たに奈良時代の瓦や土器が出土したことから、付近に奈良時代の施設があったこともわかりました。



奥の大きな石は建物の礎石



4. 都の繁栄

室町時代になると日明貿易が盛んになりました。日本からは刀剣・槍・扇・屏風・銅・硫黄が輸出され、中国からは銅銭・生糸・高級織物・陶磁器・書籍・書画などが輸入されました。国内では商品経済が浸透し、手工業が発達し、地方では特産品が生産されるようになりました。都である京都では酒屋や土倉などの高利貸業者の活動が盛んになり、御所周辺の上京は商業活動の中心地でした。これに対して下京は鋳物などの手工業活動の中心地でした。

足利義満の栄華の跡—京都市相国寺旧境内—

同志社大学歴史資料館・財団法人京都市埋蔵文化財研究所調査



戦国時代の堀

相国寺は、室町時代前期の永徳2（1382）年に足利義満によって創建されました。

今回の調査では、創建以前（鎌倉時代）の東西方向の溝や室町時代の道路遺構がみつかりました。この道路は平安京の条坊道路を北に延長した東洞院大路とも推定できます。調査地西部でみつかった溝には焼けた瓦や土器が大量に捨てられていました。応仁・文明の乱（1467～1477）などで焼け落ちた仏堂のものかも

しれません。戦国期の土師器皿には金箔を施したものもありました。中国製の染付や天目茶碗、さらには朝鮮王朝陶磁などもあり、多彩な遺物が出土しています。青磁壺は精巧に作られたもので、いかにも大寺院の所有物であったことを物語っています。

都の住宅街—京都市上京遺跡—

財団法人京都市埋蔵文化財研究所調査

調査地周辺は、平安宮の北側にあたり9世紀前半頃から貴族の別荘や邸宅・寺社の用地として開発され、中世以降も公家屋敷や武家屋敷・寺院などが造られました。

調査の結果、平安時代前期から江戸時代までの遺構が良好に残っており、平安時代後期から宅地として利用されたことがわかりました。遺物には中国製青磁皿や褐釉盤（大皿）・口禿げ白磁皿などのほか茶器や白い土師器皿もあり、平安時代から中世京都の都を彩る典型的な遺物がそろっています。



白磁四耳壺



5. 動乱期の京都

武士の世になって久しい室町時代の中頃に將軍の跡継ぎ問題から応仁・文明の乱（1467～1477年）が起こり、京都は動乱の時代を迎えます。2大勢力の一方が西に陣を張ったことから西陣という地名が起こります。京都は戦場となり、乱が終息したあと守護大名たちは都を離れてそれぞれの地元に帰り、抗争を繰り広げ、戦国時代が始まりました。伝統的な大名が家来に権力を奪われるなど、武力主体の世になります。織田信長や豊臣秀吉のころには楽市・楽座により商業が盛んになり、人や物の動きは活発になりました。

戦国期の丹波の城跡—京丹波町三ノ宮東城跡—

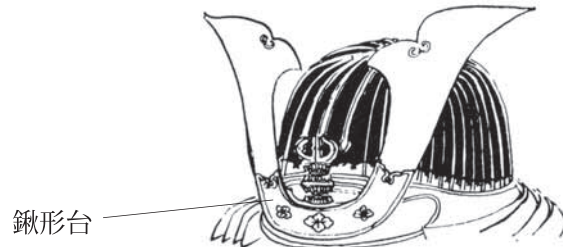
当調査研究センター調査



三ノ宮東城の全景

三ノ宮東城跡は16世紀前半に築城され、戦国期の動乱の時期に使われた城です。城跡は京丹波町の西方に位置し、高屋川の上流に開けた平野を見下ろす丘陵上にあります。この場所は山陰道に近く、綾部や大阪の能勢へ通じる交通の要所でした。

城には6つの曲輪があり、斜面には切岸や堅堀を設けていました。各曲輪からは土師器や陶磁器などの日常食器のほか甲冑の部品が出土しています。人が常駐する城であったようです。



鋏形台



兜の部品：鋏形台

街道沿いの町屋のくらし—京都市淀城跡—

財団法人京都市埋蔵文化財研究所調査

調査地は京阪淀駅の周辺で、近世淀城の石垣や蔵のほか桃山時代から江戸時代初期までの大坂街道を中心とした中世末期の淀津の町屋（淀城以前）が見つかりました。

南北方向の大坂街道の路面は底面に多量の瓦を敷き詰め、丁寧な盛り土をしていました。道路の幅は約7mです。この路面に沿って町屋に関する遺構が展開していました。町屋からは土師器のほか唐津焼や瀬戸焼・備前焼・信楽焼など各地から運ばれた物が出土しています。



菊皿

展示遺跡位置図



第27回小さな展覧会 会期：平成24年8月18日～9月2日

編集・発行 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

〒617-0002 向日市寺戸町南垣内 40-3 TEL.075-933-3877 Fax.075-922-1189

ホームページアドレス <http://www.kyotofu-maibun.or.jp> 印刷 三星商事印刷株式会社

発行：2012.8.18